自動化で未来を拓く
CKD
CKD株式会社
本社・工場
〒485-8551 愛知県小牧市応時2丁目250番地
TEL(0568)77-1111 FAX(0568)77-1123
ホームページアドレス http://www.ckd.co.jp/

日刊工業新聞
Business & Technology
地球環境
第２部
２０１４年(平成２６年)
７月２９日 (火曜日) 1
(第３種郵便物認可)

グリーンイノベーションの実現に向けて

温暖化や森林・生態系の破壊、水・大気・土壌汚染など、地球環境はさまざまな問題に直面している。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の三つの作業部会がまとめた第5次評価報告書では、気候システムの温暖化については疑う余地がなく、温暖化の進行がより早く大きくなる前に取り組みを加速させる必要があることが鮮明になった。産業界は温暖化の緩和に努力を続けてきたが、世界的な人口増加や経済の発展に伴うエネルギー消費の増大に対し、先進的な取り組みで世界をリードしていくことが求められている。環境産業の市場規模は拡大傾向にあり、より一層のグリーンイノベーションの推進が期待される。

空はすぐそこで見られる一番身近な大自然
——石原

石原 良純氏 × 町田 敏暢氏

俳優・気象予報士　国立環境研究所

子供たちに研究のワクワク感を伝えたい
——町田

近年、これまで経験したことのないような大雨や猛暑、突風など極端な気象現象が増えているが、これらは地球温暖化が原因ともされている。地球温暖化を引き起こしている温室効果ガスの中でも最も重要なのが二酸化炭素(CO_2)だ。今回、空の楽しさや地球環境問題についての講演を多数行っている俳優で気象予報士でもある石原良純さんと、世界で初めて旅客機を使いCO_2濃度の定常観測を実施している国立環境研究所の町田敏暢さんが、空から考える身近な環境から地球規模での環境までを対談した。

空のおもしろさ

——石原　我々は生活の中で、〝空気を読む〟じゃないですか。場の小さな空気を読むことはするのに、地球の大きな空気を読むことを忘れてしまっていると思うのです。私は気象予報士として大きな空気を読むことや空の楽しさを伝えたいと考えています。

町田　石原さんは空のどんなところが楽しいと思いますか。

石原　まず、見ていてきれい。日常のストレスを空という自然に触れることで解消できます。車や電車で遠くへ行かなくても、すぐそこで見られる〝1番身近な大自然〟が空です。ところで、ご専門は何学というのですか。

町田　二酸化炭素(CO_2)の専門家です。気候学という人もいますが、CO_2をはじめとした空気を構成する成分を調べています。

石原　町田さんはその中におもしろさがあるのですね。

町田　そうですね。今、石原さんが空を俯瞰(ふかん)して見られている感じがして、共感しました。

石原　俯瞰するまではいかないですよ。大気を俯瞰するといえば、北海道・札幌郊外にある手稲山スキー場から見下ろす石狩平野の景色が印象的です。冬に、札幌の街だけ茶色いおわん型のスモッグに覆われるのです。このように俯瞰することはなかなかできませんが、なるべく引いた視点から見たいと思っています。例えば、米国のオクラホマで竜巻を追ったことがあります。竜巻の後ろからその全体像を見ると、竜巻の上空は真っ黒でも、すぐ横の空は真っ青に晴れ渡っている。そのコントラストはとてもきれいでした。でも何より毎日暮らしている街の空にもおもしろさがあるというのを伝えたい。町田さんの研究は成分で空を見ていくのですよね。

町田　そうです。成分で見ていくと地球が見えてくるんですよ。広い範囲で測ることでCO_2の流れがわかるようになります。

石原　町田さんにはCO_2の粒々が見えるわけですね。

町田　測ったものを数字にして並べていくと見えてきます。

(2面へ続く)

第①②面　対談：石原 良純氏 × 町田 敏暢氏
第③面　自動車の環境対応
第④面　水素社会／エネルギーの高効率利用
第⑤面　再生可能エネルギー
第⑥面　省エネルギー
第⑦面　省エネルギー／スマートコミュニティー
第⑧面　廃棄物処理／3R
第⑨面　都市資源開発
第⑩面　生物多様性
第⑪面　ESD(持続可能な開発のための教育)
第⑫面　水処理／土壌汚染対策
第⑬面　環境計測機器
第⑭面　気候変動

三井物産
www.mitsui.com/jp

おじいさんたちが植えた木を、
わたしたちが使う。
わたしたちが植える木を、
みらいの孫たちが使う。

日本の暮らしが、めまぐるしく変化したこの50年。
いま、あらためて、木のぬくもりを思い返し、
生活に取り入れて、自然を思いやる“木づかい”の毎日へ。
何十年も前に植えられた木を、たいせつに使う。
そして、何十年後かのために、あたらしく植える。
それは、森林を代謝させ、健康に保ち、
みどり豊かな国を受け継ぐことに、つながります。

三井物産は、次世代のことも考えながら、
「植える」「育てる」「切る・使う」が循環する、
持続可能な森づくりに取り組んでいきます。

木のやすらぎと、森のめぐみを、次の世代へ。

高度成長期の頃に植えられたカラマツの切り株です。

三井物産の森

全国70か所以上、約44,000ha。
長い時間をかけて、大切に守り育て続けています。